

寧夏の防災農業生態パターンに関する初歩的な研究

劉小鹏 王亜絹 趙小勇

寧夏大学資源環境学院，寧夏 銀川 750021

キーワード； 旱魃災害 災害を避ける農業生態パターン “二元” 地域の特徴 寧夏
主旨；

災害を避ける農業生産の環境背景を分析した。即ち、農業生産システムはいろいろな要素によって成り立った複雑な動態の巨大システムである。この巨大システムの中には必ず比較的小さな地理単位の農業生態の二次システム運営に影響を与える主導駆動力、あるいは、いくつかの駆動ベクトルによる合力作用が存在しているに違いない。寧夏農業の発展に影響を与える各駆動力の中では、旱魃による災害がよく見られる。影響の範囲はもっとも広く、損失がもっとも大きな自然災害である。旱魃を主とする自然災害が多発することはすでに寧夏農業の発展を抑制する主な要因となった。農業の災害を避けることは、旱魃と半旱魃が多発する地域の農業の持続的な発展問題を解決する一つの革新性観念の更新である。それは比較的小さな地理単位の基礎の上に、地域の大きな仕組みと異なる局部の農業発展の生態パターンを明らかにした。特に、比較的小さな地域農業の発展に対して、最も指導性があり、現実的意義を持っている。災害を避ける農業というのは、特定地域の農業発展に影響する各種の災害の基本的な規律に従って、持続的な農業生態システムを中心に利益を追求、害を避けることにより、農業産業構造の適切調整と戦略的調整を行い、さらに精細化、多様性の栽培と養殖を組み合わせ、集約、高効率、規模的経営方法を採用し、経済、生態、社会公益を一体的に融合する現代農業の新しいシステムである。寧夏の実情にあわせ、黄河の水による灌漑区の産業化運営と高効率市場の農業災害を避ける生態二次パターン及び南部山区の資源高効率利用と総合発展の災害を避ける農業生態二次パターンを基本的に築き上げた。また、このパターンを具体的に実施する中で採用すべきな対策と出現しやすい問題も検討してみた。即ち、各レベルの政府の間、農民世帯の間、政府と農民世帯の間の利益配分のバランスの問題である。災害を避ける農業パターンの応用はその土地の事情にあわせて、適切な方法を取るべきである。タイムリーに適合する原則に従うのである。比較的優位性のある地域性を持つ農産品の精細加工業を積極的に発展させなければならない。